

2014年度 教育研究緊急支援経費 成果報告書

3学部連携による関大前通をフィールドとした 地域まちづくり実践教育報告書

関西大学 関前スタジオ (まちかん^{いいよ}114) 整備プロジェクト



岡 絵理子 (環境都市工学部・准教授)
与謝野 有紀 (社会学部・教授)
奥 和義 (政策創造学部・教授)
三谷 真 (商学部・准教授)

表紙は、2015年6月1日のオープンに向けて、周辺地域配布用に作成したチラシです。

はじめに

本報告書は課題「3 学部連携による関大前通をフィールドとした地域まちづくり実践教育」として、2014年9月1日～2016年3月31日の期間、**2014年度関西大学教育研究緊急支援経費**を受け実施いたしました活動の成果を公表するものです。

当時の社会や、関西大学の置かれていた状況を鑑み、早急に関大前通りに関西大学が実践教育の場として地域拠点を持つ必要があると考え、4学部4名の教員で応募し、採択されたものです。2015年3月には、1学部1名の教員が退職されたため、それ以降は3学部3名の教員で研究活動を行いました。結果として、関西大学ラボラトリー「まち・かん114」が開設されました。ここは、さまざまな自主事業や地域の方々の作品発表の場となり、また地域の商店会の方々が何度も話し合いを持たれ、商店会組合を再出発されましたこともあり、関大前通りのまちづくりにとっては大いに意味があったことと感じております。

実施にあたりましては、支援経費だけでなく、大学職員の方々の人的支援・応援もいただきました。また、4学部の学生、特に空き店舗のリノベーションにおいては建築学科の学生、大学院生が多く学びを得ながらも熱心に取り組み、大いに教育効果が得られたものと思います。

経費の上で支援いただきました関西大学、ご協力いただきました商店会のみなさま、地域住民の皆様へ深く感謝いたします。今後、大学の運営に移りました関西大学ラボラトリー「まち・かん114」が、ますます地域に愛され、地域の活動拠点に成長・発展することを願います。

2016年3月31日

環境都市工学部 准教授 岡 絵理子
社会学部 教授 与謝野 有紀
政策創造学部 教授 奥 和義
商学部 准教授 三谷 真

目次

1. 地域活動拠点整備に至る経緯	5
2. 関前スタジオ（仮称）整備	8
3. まち・かん ^{いいよ} 114のオープン	18
4. まち・かん ^{いいよ} 114の利用状況	20
5. 活動の成果	25
6. 今後への学び	28

1. 地域活動拠点整備に至る経緯

社会的ニーズ

近年、市民の社会における役割は大きく変化しつつある。社会基盤の整った市街地では、地域環境の管理人は、行政から地域住民に移りつつあります。地域を見守り、地域を考えるとといった地域住民にとっての地域貢献・地域参加は、地域社会におけるつながりをつくることにより、自らの居場所の確認作業ともなります。このような活動は市民の義務ではなく喜びを伴う生活シーンの一部であり、地域住民が活躍することのできる場がある地域、地域住民の手による活動が多くみられる地域であることが、地域を評価する新たな指標となります。大学では、文献や専門書を用いてまちづくりの専門性を学ぶことが重要ではありますが、それとともに地域で活躍でき、地域を牽引できる市民の育成という役割を果たす必要性が生じています。

関西大学の地域活動拠点

大学教育では、それぞれの専門性を実践の場で確かめ活かすことが重要であり、関西大学ではこのような活動はすでにいくつかの学部で実施されています。中でも、地域における教育・研究のための拠点整備をともなう実践教育は、単に大学が地域を教育の場として「利用」するのではなく、地域にとって信頼のおける「住民」となることが期待されています。そのことにより効果的な実践教育が実現することは、既に環境都市工学部の「佐治スタジオ（丹波市）」や、社会学部の「リサーチアトリエ（大阪市北区）」などで実証されています。このような地域拠点整備が、関西大学の本拠地である関大前駅周辺、吹田市山手町で行われることへの期待・必要性は、以前から指摘されていたが、今回ようやくそれが実現されます。

関西大学として学部を超えた連携を持ちながら、実践的に地域のまちづくりに取り組む教育の場としての地域拠点の整備は、専門とする領域の実践教育であるだけでなく、多様なものの見方、考え方を知った上で専門性を磨くことになり、より実践的かつ高度な教育効果、地域を牽引する人材育成が期待できます。また、学生にとっては、関大生としての学生間ネットワークを広げることも可能となります。



丹波市青垣佐治の関西大学佐治スタジオ



大阪市北区天神橋筋商店街内の
関西大学リサーチアトリエ

地域において関西大学が抱える課題

一方、関西大学周辺地域における関西大学のおかれている現状は、多くの課題を抱えています。近年実施した関大周辺居住者、店舗経営者へのアンケート調査（建築学科岡ゼミの特別研究およびゼミナール活動として実施した、2012年「関大前通りの店舗経営者を対象とした関大前通りのまちづくりに関するアンケート調査」、および2013年「関大前周辺居住者（山手町東1丁目）を対象とした同様のアンケート調査」）では、地域の方々の関大生に対する評価は大変低いことが明らかとなりました。その批判は、地域に生きる人としてのマナー、生活態度にまで及んでいました。

また、関大前駅、関大前通りの空間的課題も多く指摘されました。駅が狭小であること・通勤通学の歩行者が一時的に大量に発生することへの不安、自動車と人との通行の混在による安全性への不安、周辺店舗の道路や水路上への無秩序な溢れ出し、店舗の業種変化などでした。大学周辺の地域環境マネジメントの必要性も認識されていました。

一方で、地域住民からの関西大学への期待は大きいことが確認できました。広く、四季折々に美しく彩られるキャンパスは地域住民の生活の中に根付いており、文化的拠点、防災拠点としても大きな期待が寄せられていました。

関西大学が今後の地域との良好な関係を推し進め、文化拠点、防災拠点としてこれまで以上に地域の信頼を得、また地域の方々に、関大前の一帯が文教地区であることを再認識していただくためにも、関大前通りの新しい教育拠点の整備を緊急に進める必要があると考えました。

以上のような背景から、関大前通りにおける地域まちづくり実践教育の緊急性、必要性として下記の3点をあげられます。

■参加する市民を育成する地域まちづくり実践教育の必要性

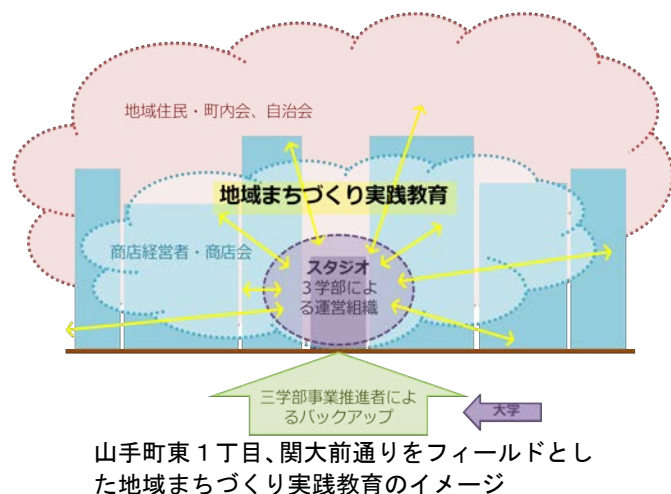
- ・コミュニケーションの能力の高い市民の育成をめざす。
- ・学生の主体性を重視し、それぞれの学生が自ら考え、お互いに調整する能力を養う。
- ・居住者、店舗経営者など、多様な立場の地域住民と関わることによる地域まちづくり実践教育を進める。

■3学部連携によるまちづくり実践教育の必要性

- ・まちづくりに取り組む社会学部、政策創造学部、環境都市工学部が連携した新たな地域拠点を整備する。
- ・それぞれの専門性を認識しながら、多角的なものの見方、考え方を身に付ける総合教育を実施する。

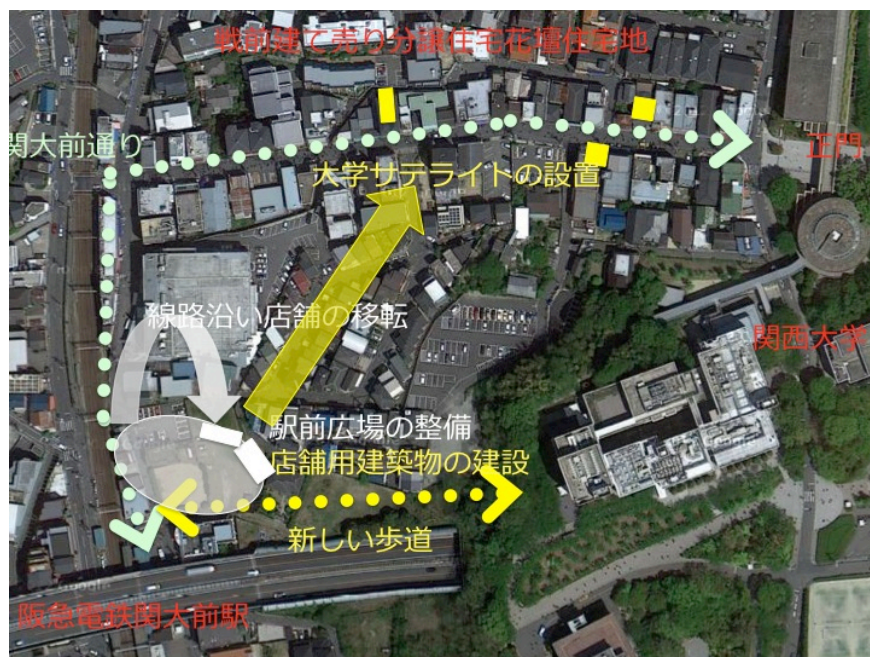
■関大前通りにおける、学生によるまちづくり活動拠点整備の緊急性

- ・関大前通りをフィールドとした、地域に生きる人として実践的教育を実施する。
- ・大学としての立地環境の一つとしての学生街である関大前通りの重要性を大学側が認識していることを明示するためには、この時期を逃すことはできない。
- ・これまで研究室単位、学生サークル単位など、さまざまな単位で行われてきた関大前通りでの活動を、一元的に把握するまちづくり拠点としても期待できる。



新アクセスに関わる地域対応

2013年6月、関西大学が新設を計画している駅から直接キャンパスを結ぶ「新アクセス」の内容が、地域でも話題になってきていた。関大前通りの店主は、新アクセスに通学する学生が流れ、関大前通りを使わなくなるのではないかと不安を漏らすようになっていた。しかし、関大前通りは、商店街に見えているものの、商店街としての組織は全くの休眠状態で、地域の組織として、住民の自治会や、大学との連絡関係を作ることができない状態だった。当時から、学生から、あるいはその他の組織からの商店街イベントの提案があっても、各店舗が個々で出資したりと、足並みが揃わないことも地域の課題になっていた。そこで新しい拠点整備は、大学が地域の方々に集会施設として使っていただくことも視野に入れて整備されることになった。このような場を作ることによって、関大前商店会の復活が期待された。



地域拠点の必要性を示すためのコンセプト図

新アクセスの整備に対し、関大前通りの空き店舗を大学のサテライト研究室とすることで、関大前通りに新しい意味を持たせようという提案

2. 関前スタジオ（仮称）整備

物件探し

関大前通りは、多くの飲食店が立ち並び、商店街を形成していますが、その中にもいくつか長期にわたって空き家になっている建物があります。私たちが目をつけたのは、千里山東1丁目14に立地する、木造2階建ての建物です。商店街の中央部分で、住宅地に入る道のT字路にもなっています。



関大前通りにおける対象物件の位置



対象物件の道から見た様子

2014年4月17日10時、株式会社フラット代表取締役植木清裕氏の案内で、物件を見に行った。その時点では賃貸物件ではなかったが、株式会社フラットが以前取り扱ったことがあるということで、所有者に話していただいた。

建物の状況

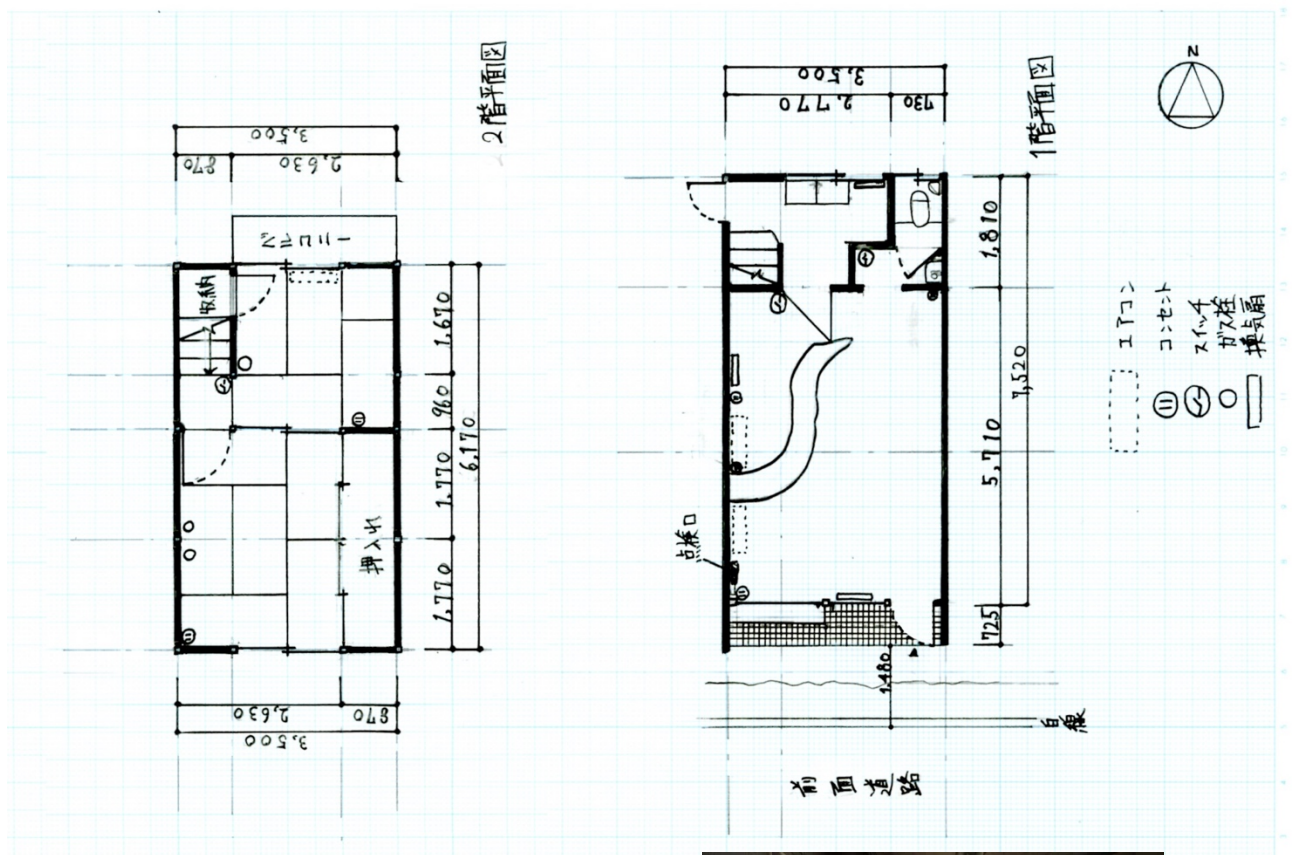
- ・1階は、一部にカウンターがある1室とトイレ（和式）、厨房となっている。
- ・カウンターと厨房に、ガスと水道がきている。給湯設備はなし。エアコンはあるが古い。
- ・2階には、厨房から上がる。和室2室、押入れ。エアコンはあるが古い。
- ・構造上、躯体には問題がないと思われる。雨漏りなどもなし。
- ・電気、ガスの配線、コンセント、エアコンなど設備機器は取り換える必要がある。
- ・トイレは、このままでも使えそうだが、和式。

契約や今後の運営

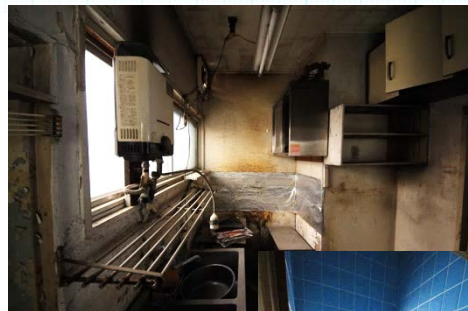
- ・植木氏より、相続中で名義変更行われていないこと、所有者の意向（所有者は一切手を入れる気はないこと、建物内で事故等が発生しても関知しないこと）が伝えられた。
- ・大学側からは、賃貸期間を保証した契約を希望することなどが伝えられた。
- ・大学側から、今後の方針を伝えることが約束された。
- ・賃貸契約は大学と行い、費用も大学による支出が約束された。
- ・私たちは、本研究費をいただくことで、イニシャルコスト（①以外）に当てることとなった。

イニシャルコスト—①建物貸借関わる初期経費、②業者による設備整備修繕費（分電盤取り替え、電気容量アップ、必要があれば配線取り替え、電気コンセント、ガスコックの取り換え、バリアフリー化など）、③学生による改修のための材料費等

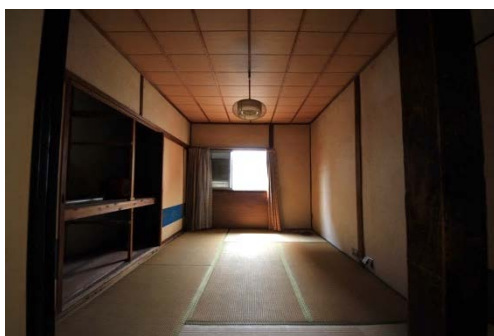
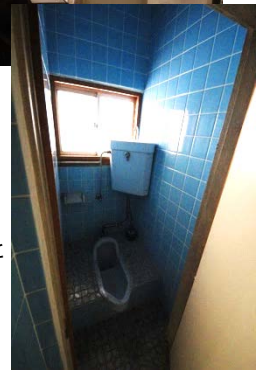
ランニングコスト—④家賃、⑤光熱費、⑥火災保険料などが想定される。



1階店舗部分を入り口から見る



1階店舗奥の洗い場とトイレ



2階道路側6畳和室



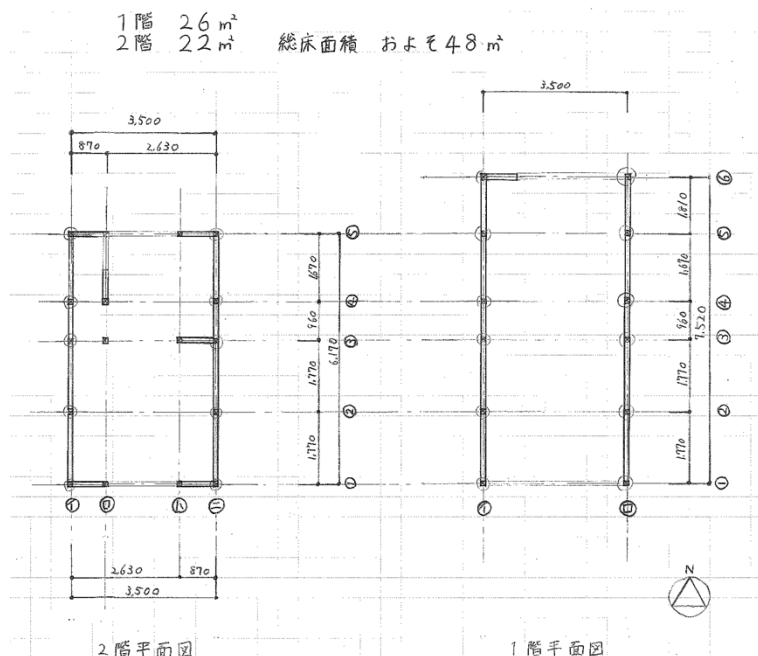
2階奥4.5畳和室

スタジオの耐震補強

この建物は、元々は4軒長屋の一部であり、両側の建物は構造を切り取って建てられていることがわかっている。そのため、東西方向の壁面量が極めて少ないことが見てとれた。そこで、建築学科建築構造学研究室（榎井教授）に依頼し、構造補強の提案をしていただいた。

以下、2015年3月5日の報告書を転載する。

(1) スタジオ概要



関前スタジオ軸組平面図

表-1 床面積

階数	長さ (m)		床面積 (m ²)
	X 東西)	Y 南北)	
2	3.50	6.17	21.60
1	3.50	7.52	26.32
Σ			47.92

表-2 見付面積

方向	階数	建物長さ	高さ	見付面積 (m ²)
X 東西)	2	6.17	1.15	7.10
	1	6.17	1.35	8.33
		7.52	1.15	8.65
		Σ		24.07
Y 南北)	2	3.50	1.15	4.03
	1	3.50	2.50	8.75
		Σ		12.78

屋根：軽い屋根（令46条4項表2による）

屋根に関する判定は目視による。

ただし、基礎に関しては確認できなかったため、適切な基礎構造が敷設されているものと仮定して以下の計算を行う。

(2) 壁量計算結果

表-3 壁量計算結果

方向	X				Y			
	面積 (㎡)		1㎡当たりの必要壁長 (m/m ²)	必要壁量 (m)	面積 (㎡)		1㎡当たりの必要壁長 (m/m ²)	必要壁量 (m)
必要壁量	床面積	21.6	0.15	3.24	床面積	21.6	0.15	3.24
	見付面積	7.1	0.5	3.55	見付面積	4.0	0.5	2.01
存在壁量	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)
	土壁	4.35	1	4.35	土壁	12.34	1	12.34
	Σ			4.35	Σ			12.34
判定	地震力	OK			地震力	OK		
	風圧力	OK			風圧力	OK		
安全率	地震力	1.34			地震力	3.81		
	風圧力	1.23			風圧力	6.13		
必要壁量	床面積	26.3	0.29	7.63	床面積	26.3	0.29	7.63
	見付面積	24.1	0.5	12.04	見付面積	12.8	0.5	6.39
存在壁量	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)
	土壁	0.87	1	0.87	土壁	15.04	1	15.04
	Σ			0.87	Σ			15.04
判定	地震力	NG			地震力	OK		
	風圧力	NG			風圧力	OK		
安全率	地震力	0.11			地震力	1.97		
	風圧力	0.07			風圧力	2.35		

表-4 偏心チェック結果

方向	X				Y					
	床面積 (㎡)		1㎡当たりの必要壁長 (m/m ²)	必要壁量 (m)	床面積 (㎡)		1㎡当たりの必要壁長 (m/m ²)	必要壁量 (m)		
必要壁量	④～⑤通り		5.40	0.15	0.81	①～②通り		5.40	0.15	0.81
	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)		
存在壁量	土壁	1.74	1	1.74	土壁	6.17	1	6.17		
	Σ			1.74	Σ			6.17		
	壁量充足率≥1.0	2.15	OK		壁量充足率≥1.0	7.62	OK			
必要壁量	①～②通り		5.40	0.15	0.81	④～⑤通り		5.40	0.15	0.81
	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)		
存在壁量	土壁	1.74	1	1.74	土壁	6.17	1	6.17		
	Σ			1.74	Σ			6.17		
	壁量充足率≥1.0	2.15	OK		壁量充足率≥1.0	7.62	OK			
	壁率比>0.5	1.00	OK		壁率比>0.5	1.00	OK			
必要壁量	⑤～⑥通り		6.58	0.29	1.91	①～②通り		6.58	0.29	1.91
	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)		
存在壁量	土壁	0.87	1	0.87	土壁	7.52	1	7.52		
	Σ			0.87	Σ			7.52		
	壁量充足率≥1.0	0.46	NG		壁量充足率≥1.0	3.94	OK			
必要壁量	①～②通り		6.58	0.29	1.91	④～⑤通り		6.58	0.29	1.91
	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)		
存在壁量	土壁			0	土壁	7.52	1	7.52		
	Σ			0	Σ			7.52		
	壁量充足率≥1.0	0.00	NG		壁量充足率≥1.0	3.94	OK			
	壁率比>0.5	0.00	NG		壁率比>0.5	1.00	OK			

表-3 より、1階南北方向に対して、壁量が足りていないことがわかる。また、表-4 より、1階南北方向のねじれ剛性が少なく、ねじれる可能性が高いことが分かった。

(3) 検討

表-3、4 に対して検討する。結果を表-5～7 に示す。

CASE1：表-3 に対して、壁倍率 3 の耐力壁を 4000mm 増設する。

表-5 検討結果

方向		X		
必要壁量	面積 (㎡)		1㎡当たりの必要壁長 (n/m ²)	必要壁量 (n)
		床面積	26.3	0.29
	見付面積	24.1	0.5	12.04
存在壁量	軸組の種類	軸組長さ (n)	壁倍率	存在壁量 (n)
		4.002	3	12.006
	Σ			12.006
判定	地震力	OK		
	風圧力	OK		
安全率	地震力	1.57		
	風圧力	1.00		

CASE2：表-3 に対して、壁倍率 2.5 の耐力壁を 4872mm 増設する。

表-6 検討結果

方向		X		
必要壁量	面積 (㎡)		1㎡当たりの必要壁長 (n/m ²)	必要壁量 (n)
		床面積	26.3	0.29
	見付面積	24.1	0.5	12.04
存在壁量	軸組の種類	軸組長さ (n)	壁倍率	存在壁量 (n)
		4.872	2.5	12.18
	Σ			12.18
判定	地震力	OK		
	風圧力	OK		
安全率	地震力	1.60		
	風圧力	1.01		

CASE3：表-4 に対して、1 階⑤～⑥通り・①～②通り共に壁倍率 2.5 の軸組長さ 870mm の耐力壁を増設する。

表-7 検討結果

方向		X		
必要壁量	床面積 (m ²)		1m ² 当たりの必要壁長 (m/m ²)	必要壁量 (m)
	⑤~⑥通り	6.58	0.29	1.91
存在壁量	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)
		0.87	2.5	2.175
	Σ			2.175
	壁量充足率 ≥ 1.0	1.14	OK	
1 必要壁量	床面積 (m ²)		1m ² 当たりの必要壁長 (m/m ²)	必要壁量 (m)
	①~②通り	6.58	0.29	1.91
存在壁量	軸組の種類	軸組長さ (m)	壁倍率	存在壁量 (m)
		0.87	2.5	2.175
	Σ			2.175
	壁量充足率 ≥ 1.0	1.14	OK	
	壁率比 > 0.5	1.00	OK	

ここで、検討した壁倍率に値する耐力壁の例を表-8 に示す。

表-8 耐力壁の例

壁倍率	耐力壁
3	30×90以上の木材の筋交いをたすき掛け
	90×90以上の木材の筋交い
2.5	45×90以上の木材の筋交いに木摺り
	構造用合板 t ≥ 5

(4) 提案

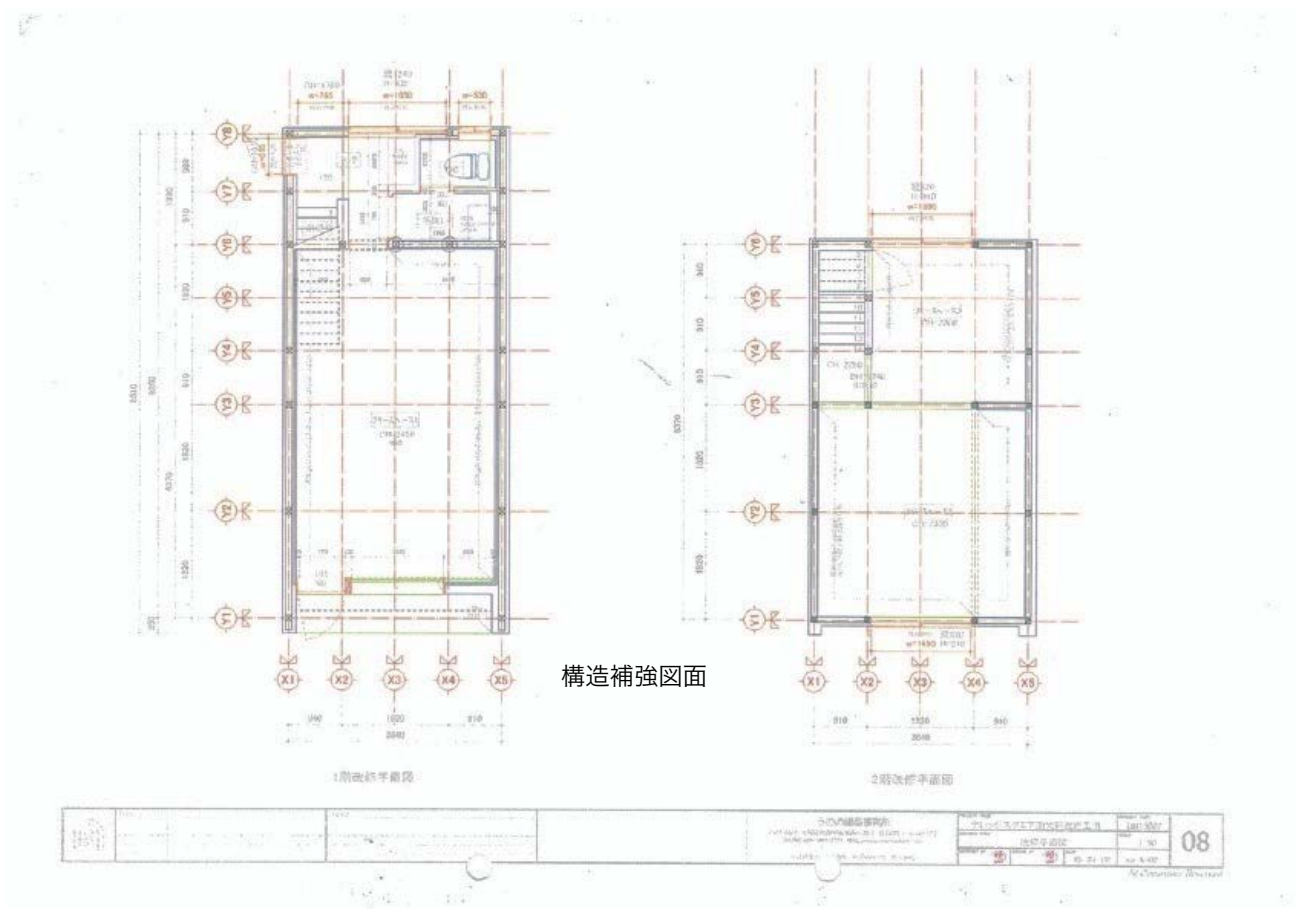
1階⑤通か⑥通、及び①通か②通にそれぞれ壁倍率 2.5 の長さ 870mm の耐力壁を増設する。

スタジオの構造改修

スタジオの改修は、建築学科学生が主体的に行うが、一級建築士である野々山氏（建築学科 OB）に専門的知識の提供をお願いし、アドバイザーとして関わっていただいた。

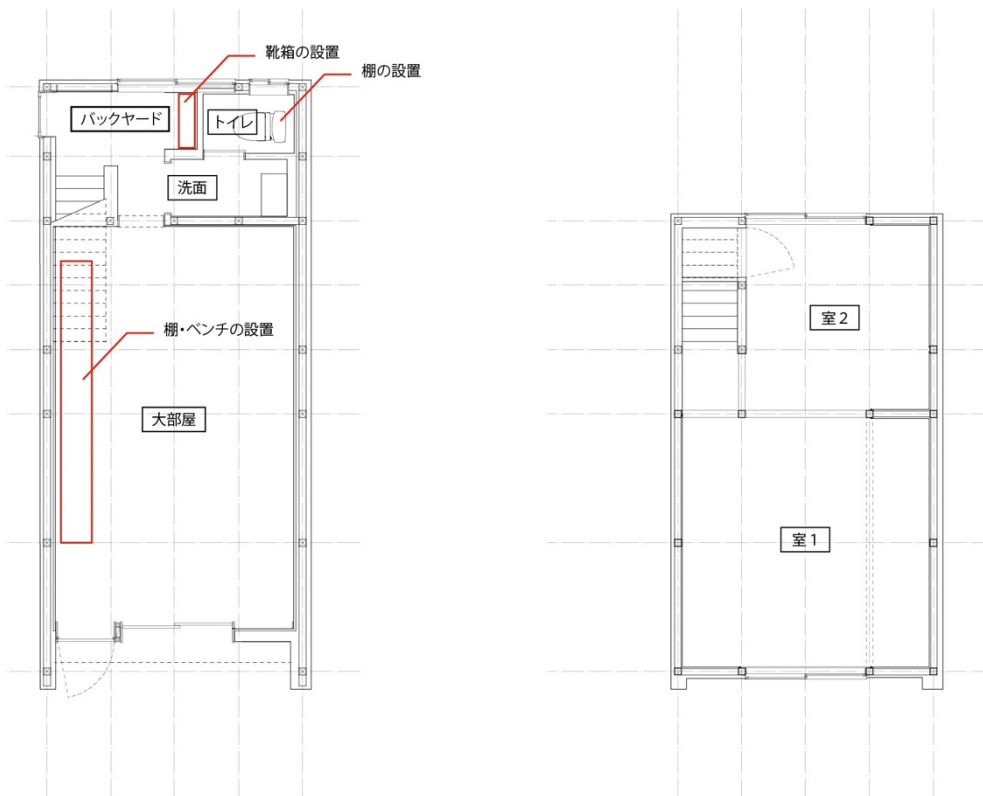
構造に関わる部分はアドバイザーの指示に従い、一方で使い方をさまざまに想定した上で、1階は全て土間に、2階は畳を全てあげて、板貼りとしました。ただし、2階の使い方は定まっていなかったため、それ以上の手は加えませんでした。

1階については、開口部は耐力壁として残した袖壁以外はガラスとし、また、開け放つことができるような建具とした。道とのつながりを強くしたいという考えである。



スタジオの内部改修

内部は、研究発表ができるようにプロジェクターを設置し、地域の人々の作品や、学生の作品などが展示できるように、一方の壁を白くし、作品展示ができる壁としました。もう一方の壁は、遊びに来た子供たちが自由に絵を描けるように、黒板塗料を塗りました。さらに事務機能を強化するため、大学側がコピー機、電話機を設置していただきました。具体的な改修は以下に示します。



■1階

□大部屋

- ・壁面塗装（紅梅色，向日葵色，消炭色，墨色）
- ・天井一部塗装（消炭色）
- ・棚・ベンチの設置（スギ集成材、棚柱・棚受け，各種金具）

□洗面

- ・壁面塗装（柳色・パールホワイト）
- ・天井塗装（消炭色）

□トイレ

- ・壁面塗装（濃藍色・パールホワイト）
- ・天井塗装（濃藍色）
- ・棚の設置

□バックヤード（階段下）

- ・壁面塗装（柳色・パールホワイト）
- ・天井塗装（消炭色）
- ・一部床張り
- ・靴箱の設置

□階段

- ・木部の研磨

→オイルステイン ローズウッドを塗装で仕上げる

■2階

□室1

- ・壁面塗装（消炭色，パールホワイト）
- ・机の設置（スギ集成材）
- ・床張り（タイル・ヒノキ）→オイルステイン エキストラクリアーを塗装で仕上げる

□室2

- ・壁面塗装（茜色，パールホワイト）
- ・床張り（タイル・ヒノキ）→オイルステイン エキストラクリアーを塗装
- ・既存の収納部分の障子張り替え

オープンに向けて、ソフト整備

オープンに向けて、ソフト整備を教員・学生・大学で話し合いながら進めました。

一つは、名称です。学生たちの提案をもとに考え、最終的に「まち・かん114 (まちかんいいよ)」に決まりました。スタジオの所在地が、千里山東1丁目14だったからです。1丁目14をとって、114としました。もう一つは運営規則の作成です。最終的には、下記のようにきまり、オープンのチラシの裏に記載しました。

関大前の地域のみなさま、
ならびに関西大学のみなさま

関大前ラボラトリ
いいよ!
まち・かん114 開設のご案内

いいよ!
関大前ラボラトリ 通称**まち・かん114**は、関西大学が教育研究活動の関大前での拠点、地域の方々との交流活動の場として設けた施設です。

2015年6月1日～2016年3月31日は、関西大学の3学部の3つの研究室に所属する学生が、地域まちづくり実践教育の一環*として、運営管理を行っていきます。

大学や地域の交流拠点として、さまざまな活動に利用していただき、場所の可能性を確かめたいと思っています。次のような活動を予定していますので、是非ご活用ください。

いいよ!
1. **まち・かん114**の1階フロアをゼミや打合せ等に利用していただくことができます。ご利用に当たっては、別紙の手続きでお申し込みください。

※次の設備があります。利用については、スタッフにご相談ください。
プロジェクター/スクリーン用の壁面/wifi/コピー機(有料)/文房具等
椅子15脚/テーブル/トイレ

※2階にも2つ部屋があります。一部屋はスタッフが利用していますが、もう一部屋はお使いいただけます。こちらについてもご相談ください。いまのところ、設備は何もありません。

いいよ!
2. **まち・かん114**では、大学から次の情報を地域に提供いたします。

- ❖ 大学の授業のスケジュール(授業の有無、試験期間、長期休暇など)
- ❖ 大学休業日の、教室貸し出し状況
- ❖ 大学の休業日に、資格試験の会場などとして、教室を利用する場合があります。そのような利用をスケジュールは、できる限り地域の方々へ提供いたします。
- ❖ 大学で開催される公開講義、セミナーなどの情報

いいよ!
3. **まち・かん114**では、地域の情報を学生に届けたいと思っています。地域のイベント、アルバイト情報など、学生に届けたい情報をお寄せください。

いいよ!
4. **まち・かん114**の内装や備品は、整備途中です。ご利用いただいて、こんなものがほしい、こうあったら使いやすいなどのご意見を、遠慮なくスタッフにお寄せください。皆さんと一緒に作り上げていきたいと思っています。

※本活動は、関西大学環境都市工学部、社会学部、政策創造学部が連携し、平成26年度 教育研究緊急支援経費を受けて行っている研究教育活動の一環です。

◎開設前、あるいは開業時間外のご意見、お問い合わせやご連絡は、machi.kan114@gmail.com ホームページでお知らせください。

いいよ!
関大前ラボラトリ **まち・かん114**
吹田市千里山東1丁目14の2
電話番号; 06-4860-6135、ファックス番号; 06-4860-6136
メールアドレス; machi.kan114@gmail.com
学生代表; 因田恭崇(いんでんやすたか)
与謝野有紀(社会学部教授)、奥和義(政策創造学部教授)、岡絵理子(環境都市工学部准教授)

3. まち・かん^{いいよ}114のオープン

まち・かん114のオープンから活動の様子をまとめたものを掲載します。



大学と地域を繋げる場所

まち・かん114は関西大学の学生、地域の住民、商店街の交流を図り、相互理解を深めることを目的として2015年6月にオープンしたスペースです。環境都市工学部、政策創造学部、商学部、社会学部が連携し、学部の垣根を超えた幅広い活動を目指しています。ジャンルの違う学部の学生が集まることで、様々な視点から意見を出し合い、運営システムの考案から施設の設計まで、学生が主体となって行いました。



学生の活動を町に持ち込む

商店街に飛び出てきた大学の教室、まち・かん114では大学のゼミとしての利用の他、授業の課題を行ったり、部活・サークルの練習やイベント実施など、使われ方は様々です。普段キャンパスに隠れている学生の活動を地域に持ち出していくことで、学生に対する住民の理解を深めていきます。





いろいろな方に関大を知ってもらうため地域や学生を巻き込んだイベントをまち・かん114から企画しています。2015年8月に実施し関大前通りのジオラマを作成するイベント「POP OUT TOWN」では、千里第二小学校か15人もの子どもたちに来てもらいました。皆模型づくりに熱心に打ち込み、個性的な作品並びました。「ペンキ塗りワークショップ」では、通りすがりの子どもたちや授業帰りの学生と一緒にまち・かん114の内壁をペンキ塗りを行いました。壁のペンキには黒板塗料を用いているので、壁一面に落書きが出来ます。



運営協議会

毎月1~2回の頻度で、学生、教員、地域代表、大学職員が集まり、関大前通りのまちづくりに関する協議会を行っています。



まちかん×クラブ

関大のクラブ・サークルを地域の方に知ってもらおうと言うことで始まったまちかん×クラブ。映画研究部の製作した映画を上映する「まちかんシアター」、写真部フィルムパートの写真を展示する「切りとり関大前」と言った様々な部活の活動をまち・かん114から発信しています。



地域からの持ち込みイベント

まち・かん114は、学生だけではなく地域の方にも積極的に利用してもらいます。趣味でされている絵画の展示や誕生日占いなど、地域にも学生に負けなくらい活発に活動されている方がたくさんいます。こういった地域の方の積極的なイベントから学生との交流が生まれます。

4. まち・かん 114 の利用状況

2015年6月から2016年3月までの利用状況を見ると、関西大学の教員が関わっている研究室のゼミ活動としての利用、地域や大学のミーティング、学生サークルや地域の趣味の会などの作品展示、サークルや地域の方の主催するイベント利用、これら貸切の利用のほかに、ビラなどの掲示や配布による情報発信などが挙げられる。

以下詳しく月毎の利用を記す。★は自主事業。

2015年

■6月の利用

- ・6/24 Be Festival

8/28に行われる「関大前ストリートに一体感を生む」ということをテーマとしたイベントの認知度を上げるためのプレイベントとして行われた。主にアーティストによるアコースティックライブとライブペイントといったライブパフォーマンスと交流会が行われた。

- ・6/30 アジトラのインターンシップ説明会

海外インターンシップの紹介

- ・その他

毎週木、金曜日にゼミとして利用される。

■7月の利用

- ・7/7 関大浴衣デーの利用

関西大学で行われる「関大浴衣デー」というイベントのスタッフの拠点として利用。また、まちかんに笹を置いておき短冊を書いてもらった。

■8月の利用

- ★8/06 POP OUT TOWN

千里第二小学校の15人の子どもたちに来ていただき関大前の簡単な模型と一緒に作成した。皆模型づくりに熱心に打ち込み、個性的な作品が並んだ。

- ・8/17 建築学科岡ゼミ

- ・8/18 複合材料構造研究室ゼミ利用

- ・8/21 文化会ギター部ギター演奏練習会

- ・8/24 吹田クリエイティブムーブメンツミーティング利用

- ・8/26 カンコネ

まち・かん114によく来てくれている社会学部の学生が「お酒を飲まずにどれだけ喋れるか!?!」をコンセプトに学生同士が親睦を深めていく会を開く。

- ・8/28 Be Festival 2015

関大前の通りで地域を巻き込んでお祭りをしようという団体で、まち・かん114では学生が主体となっている企業の出店を行っていただきました。

- ・8/31 吹田クリエイティブムーブメンツミーティング利用

- ・その他

陶山ゼミ

海外ボランティアサークルマスターピース

■9月の利用

- ・9/7 関西大学ローターアクトクラブ ミーティング利用
- ・9/10 セブンイレブン吹田関大前店 ミーティング利用
セブンイレブン吹田関大前店の店舗改装に伴い、従業員のミーティングに利用して頂きました。また、改装オープンに伴う宣伝のビラ配りの拠点としても使っていただきました。
- ・9/14 吹田クリエイティブムーブメンツ ミーティング利用
- ・9/26 第二回カンコネ イベント利用

初対面でお酒なしで、どれだけ語り合えるか？をコンセプトとしたイベントを行って頂きました。第一回と比べ、人数は少ないもののより議論が白熱しており、学生同士の意見や知識の交換のきっかけとなるイベントとなっていました。

- ・9/14 ivote 関西及びブームスポーツ杉田氏
ivote 関西という学生団体が、選挙の投票証明書を提示したらお店で割引されるというキャンペーンを企画しており、その広報活動における写真撮影に利用してくれました。
- ・9/22 ギタークラブ 練習利用
- ・9/22 長崎からの視察
長崎で商店街にコミュニティスペースを立ち上げようと考えている男性2人が視察に来られた。
- ・9/25 City Life NEWS 取材
大阪の地域向けの情報を流している「City Life NEWS」というwebサイトの取材を受ける。
- ・9/29 吹田クリエイティブムーブメンツ ミーティング利用
- ・9/30 模型同好会 ミーティング利用

■10月の利用

- ・10/2 FM 千里取材
お昼前の主婦向けに放送している地域の情報番組の取材を受けました。11:30～生放送でのコーナーを設けて頂き、施設の趣旨や今後の活動についての話をした。
- ・10/8 奥ゼミ ゼミ利用
- ・10/15 奥ゼミ ゼミ利用
- ・10/16 第二回カンコネ
初対面でお酒なしで、どれだけ語り合えるか？をコンセプトとしたイベントを行って頂きました。第一回と比べ、人数は少ないもののより議論が白熱しており、学生同士の意見や知識の交換のきっかけとなるイベントとなっていました。
- ・10/20 千里山シェルター ミーティング
- ・10/22 奥ゼミ ゼミ利用
- ・10/24 体育会少林寺拳法部 ミーティング
- ・10/27 千里山シェルター ミーティング
- ・10/29 奥ゼミ ゼミ利用
- ・10/30 模型同好会 ミーティング

★ペンキ塗りワークショップ

10/12 まち・かん114の内壁のペンキを皆で塗っていこうというイベントを行い、地域の子供や学生など幅広い世代の人に参加してもらいました。

★まちかんシアター(映画研究部 上映会)

10/17 映画研究部の製作した映画を上映するというイベントを行いました。事前の告知があまりできなかったため、覗いてくれる人はいるものの中で観てくれる人はあまりいなかった。

■11月の利用

- ・11/01～04 学園祭 コンピューサ 作品展示
模型同好会 作品展示(1日～2日)
関大百景 写真展時
- ・11/05 奥ゼミ ゼミ利用
- ・11/05～11/09 関西大学近隣住民ヒアリング会
- ・11/18～25 関西大学文化会写真部フィルムパート 展覧会

- ・11/24～27 ボルカノプロジェクト 平家物語絵巻物デジタル展示
- ・11/26 ちさと自治会 認知症予防アロマ美容セミナー
- ・11/30～12/01 関西大学環境都市工学部建築学科 設計製図課題作品展示会

★まちかんシアター(2日目)

10/19に映画研究部の作成した映画の上映会を行いました。事前の告知を行い、また夜で目立つということもあり、1日目と比べて訪問者が増加した。

□学園祭期間

1日～2日 模型同好会

学園祭期間中は経済学部の1教室を貸し切って展示を行っており、その場所の告知スペースとして作品を4点と告知用パネルをまちかんに設置。

1日～4日 コンピューサ(ボランティアサークル)

日々の活動をまとめたシートの展示を行いました。当日は街頭での呼びかけを行い4日間で930人の人に来ていただいた。

1日～4日 関大百景写真展示 松田隆寛(社会学部 2回生)

写真を趣味としていて、関大の様々な場所をスマートフォンでとっており、学園祭期間中にその作品の展示を行った。その後も「松田君の関大百景」として継続。

□学園祭後

学園祭最終日の模擬店が撤収した後に地域にお住まいの方が来られて、「学園祭期間中、学生がうるさ過ぎる。それを四日間も続けるのは地域住民にとってとても迷惑だ。関大の門から駅までを警備員を配置して交通整備を行う約束なのに、それが全く果たされていない。そういったことを大学の職員や学園祭実行委員に伝えておいてほしい。」というお言葉をいただきました。まち・かん114については「大学と地域の窓口になってくれるのはとても良いことだから、頑張ってくれ。」と仰っていました。

・その他

★平家物語絵巻デジタル展示 (11/24～27)

与謝野先生の計らいで、全長33mにも及ぶ平家物語の絵巻物を高解像度でデータ化したものを大型のディスプレイによって、デジタル展示を行うというイベントを行って頂きました。

・ちさと自治会認知症予防アロマ美容セミナー (11/26)

関大前通りにお住まいでちさと自治会に所属している上田さんという方がまち・かん114に興味を持ってくださり、以前に公民館で行ったというアロマセミナーをまち・かん114にて開催してくださいました。(生徒さん5人)

- ・関西大学文化会写真部フィルムパート 展覧会 (11/18~25)

関西大学の部活動やサークル活動をまち・かん114から発信していく「まちかん×クラブ」企画第二弾において、関西大学の写真部フィルムパートの作品展覧会を行いました。(およそ20人来客)

- ・関西大学建築学科二回生設計製図課題 作品展示会

まちかんメンバー(野村)の企画で、環境都市工学部建築学科の二回生が毎年秋に行っている、豊津駅を提案するという設計製図課題の作品展示を行いました。一回生の製図の授業中に告知をしたこともあり一回生が特に多く来客しました。(39人来客)

■12月の利用

- ・12/04 模型同好会 ミーティング
- ・12/13~19 勘里貞子さん(地域住民) サクラプロジェクト活動写真展示
- ・12/15,17 勘里貞子さん 色づくり体験講座
- ・12/18 模型同好会 ミーティング
- ・12/24 勘里貞子さん キミコ式絵画教室
- ・12/26 体育会弓道部 ミーティング

- ・12/13(日) キャンパスママまつりでの休憩スペース

NPO 法人カイザーズクラブが開催される「キャンパスママまつり in 関西大学」にてまち・かん114もイベントに協力していきたいと考えています。キャンパスのイベントに来てくれた方の休憩スペースとしてオープンしようと考えています。

- ・その他

★目安箱設置

学生や地域の方が関大や関大前通りについて、どう思っているのかを知ることと、大学と地域の窓口になることを目的として実験的に目安箱を設置しました。

軒下に設置した目安箱にいくつか意見をいただいた。

- ・関大前通りについて

路上駐輪が多い。

本屋、文具店、子供が入れる店が関大前に欲しい。

嘔吐が多い。

花を植えてほしい。

ラーメン屋がおいしいけど、多過ぎる。

イルミネーションをやってほしい。

- ・関西大学について

東体育館のトイレをきれいにしてほしい。

選択必修や学部限定の授業が多い。各学部の授業を他学部にも開放してほしい。自由選択が可能な授業枠を増やしてアクティブラーニングを遂行できる環境を整えてほしい。

- ・12/13~19 勘里貞子さん さくらプロジェクト活動写真展示

関大の近くに住んでいる勘里貞子さんという女性が参加しているボランティア活動「さくらプロジェクト」の活動写真の展示を行いました。

「さくらプロジェクト」とはタイのチェンライという山岳地帯の村にて子供の就学支援活動を行っているボランティア活動で、主に現地の子供と一緒に劇をしたりしているそうです。

今回はその活動の様子を納めた写真の展示会をまちかんにて行い、50人あまりの人に来て頂きました。

また、翌週に行う「キミコ式絵画法教室」に伴い、赤・青・黄・白の4色の絵の具でいろんな色を作るという教室も開いてくれた。

・12/13 キャンパスママまつり

12月13日のキャンパスママまつりにおいて、キャンパスに向かう人や帰る人がいつでも入れるよう、一日オープンしていました。同日に資格試験が重なっていたこともあり、普段と比べ、関大前の人通りはかなり多いものでした。ベビーバギーについては、予想していた通り苦労している人を何人か見かけられた。

・勘里貞子さん キミコ式絵画教室

タイの山岳地帯の奉仕活動の写真展示をして下さった勘里さんが、キミコ方式絵画という、誰でも簡単に絵が描けるようになるという手法を用いた絵画教室を、まちかんで開いてくれました。

2016年

■1月の利用

- ・01/07～14 堀井登文（岡ゼミ） 関大前アンケート調査
- ・01/08 模型同好会 ミーティング
- ・01/15 吹田クリエイティブムーブメンツ ミーティング
- ・01/10～17 徳永みどりさん キミコ方式絵画展
- ・01/10,17 徳永みどりさん 誕生数秘学占い
- ・01/14 関大前通り環境美化キャンペーン
- ・01/29 模型同好会 ミーティング
- ・01/31 吹田クリエイティブムーブメンツ ミーティング
- ・01/10～17 徳永みどりさん キミコ方式絵画展&誕生数秘学占い

勘里さんのつながりで、同じくキミコ方式絵画をされている徳永さんにもキミコ方式絵画の展示会を開いて頂きました。徳永さんと勘里さんを含めた5人ほどの展示で20点ほどの絵を展示しました。また、開催期間中の10と17日に誕生数秘学という誕生日占いを開いて頂きました。占いは日曜日であったこともあり、近所の方や学生、学生の父兄の方など、様々な層の方に来て頂くことができた。

・その他

★関大前通り環境美化キャンペーン

関西大学総務課土屋氏より、関大前通りの環境美化キャンペーンという関大前通りの清掃活動とポイ捨ての啓発のティッシュ配りと言った活動のお誘いを受け、まち・かん114からは因田、牧角、奥田が参加。

また、清掃活動終了後にまちかん114にて懇親会を行った。

■2月の利用

- ・02/03 文化会混声合唱団 ミーティング

- ・02/08 ローターアクトクラブ ミーティング
- ・02/21～28 習字作品展&筆ペンワークショップ

以前、利用された勘里さんと徳永さんのお友達で書道の先生をやっている藤川ひろ美さんという山田にお住まいの女性が、書き溜めた習字の作品の展示をしてくれました。また、習字の展示に伴い、就活生向けに履歴書作成などに使える筆ペンのワークショップ（23日）を開いてくれました。8日間の展示で、合計52人の方に来てもらう。

- ・02/29 早稲田のまち見学

■3月の利用

- ・03/10、12 模型同好会ミーティング、模型製作会

5. 活動の成果

本研究の目的は

1. 参加する市民を育成する地域まちづくり実践教育の必要性に応える
 2. 3学部連携によるまちづくり実践教育の必要性に応える
 3. 関大前通りにおける、学生によるまちづくり活動拠点整備の緊急性に応える
- の3点であった。

実際のまち・かん114の利用は、平成27年6月1日からの10ヶ月であったが、その間に様々な成果を上げることができました。

1. 参加する市民を育成する地域まちづくり実践教育の必要性について

本研究に参加し、運営に携わった4学部の学生(23名)は、まち・かん114に常駐し、近隣の方々との交流を深め、地域居住者のまち・かん114の利用を促しました。実際に①ちさと自治会主催、認知症予防アロマ美容セミナー、②地域居住者の方主催、写真展示、色づくり体験講座、絵画教室、③地域居住者の方主催の、絵画展、占い、書道教室等の他が実施されました。また、学生側から積極的に地域の方々の意見を聞きたいとの声が上がリ、12月には④「目安箱」を設置しました。この目安箱には、まち・かん114からの地域への情報発信要望、関大前通りの景観に関する苦情など、多くの意見が寄せられました。これらは、順次学生たちの活動課題に変えて行く必要がありますが、この活動については今後の対応となります。学生から、地域への発信は、子供たちに向けても行われました。⑤「POP OUT TOWN」は子供たちを対象とした、まちの模型づくりワークショップです。千里第二小学校の児童15名の参加を得て、関大前通りについて意見を語り合いながら、にぎやかにワークショップが実施された。これら地域活動拠点としての地域連携については、天神橋筋商店街で地域連携の経験豊富な**与謝野有紀教授**、**三谷真准教授**がアドバイスを与え**岡絵理子准教授**が主導しました。⑥関大前ラボラトリ運営協議会(地域自治会代表者、商店会、大学、吹田市、阪急電鉄、NPO法人カイザーズクラブ、学生、教員からなる)においては、資料作成、進行等を行い、学生主導による会議運営がなされ、学生たちのよい経験となりました。

2. 3学部連携によるまちづくり実践教育の必要性について

3学部は、文・理の学部に渡るため、学生たちの研究質活動に対する温度差があり、学生自身が大変苦労したところですが、それぞれの研究のバックグラウンドを発揮して、意見交換を行い、運営を進める事によって、さまざまな学生間のネットワークを活用したイベント等が行われ、地域の方々に多様な関西大学学生の活動を披露することができました。⑦ボランティアサークル「カンピューサ」による活動のパネル展示、⑧平家物語絵巻デジタル展示(社会学部**与謝野教授**提供)、⑨関大建築学科学生による、演習課題作品展示(環境都市工学部**岡絵理子准教授**提供)等がその例としてあげられます。

3. 関大前通りにおける、学生によるまちづくり活動拠点整備の緊急性について

「まちかん・114」の2016年夏に開通する新アクセス通路についての、⑩居住者に対する個別説明会、意見徴収がまち・かん114で実施され、また、地域の方々からの日常的な意見の受付の場としても機能しました。学生が、日常的に地域の方々と交流した成果であると考えます。学生による調査も実施されました。⑪NPO法人カイザーズクラブが受け入れた「キャンパスママまつり in 関西大学」では、「まち・かん114」もイベントに協力し、駅の使われ方、関大前通りの使われ方を観察しました。また、環境都市工学部建築学科(**岡絵理子准教授**研究室)では特別研究およびゼミナール活動として、2012年に関大前通りの店舗経営者を対象とした関大前通りのまちづくりに関するアンケート調査、2013年に関大前周辺居住者(山手町東1丁目)を対象とした同様のアンケート調査を実施しました

が、②2016 年は関大生に対する同様の調査を実施しました。作成のアドバイス指導は奥和義教授が担当しました。これらの成果は、この夏新設される駅から関大へのアクセス通路の影響をうける関大前通りの今後を考える有効な材料とります。

以上に示した「まち・かん114」での活動はほんの一部であり、この他にも多くの研究室のゼミ活動の場、関大学生サークルのミーティングなどに活用されました。今後は、この10ヶ月で強くなった地域と大学のネットワークを活用して、美しい関大前通り整備に向けて、勉強会を進める計画もあり、その活動拠点としても期待されています。



学生たちが発行した関大前情報マガジンカンまえ 創刊号の表紙

6. 今後への学び

プロジェクトの終了を迎え、今後の運営方針についてまとめました。

■ 運営者は、「まち・かん114」の設置意味を常に意識し、確認しておく必要がある。

果たすべき活動拠点「まちかん114」の役割

- ・ 関大前ラボラトリーは、オープン利用の空間である。
- ・ 地域住民、地域商店、学生、大学の共同活動拠点である。
- ・ 関大前通りを対象とした調査研究の拠点である。
- ・ 関大前通りの課題解決の拠点である。

■ 2016年度の活動から明らかになったこと、課題

- ・ 運営学生間の「まち・かん114」設置意味の共有を十分に図る必要がある。
- ・ 責任者となった学生が孤立しないよう、サポート体制をとる必要がある。
- ・ 関大前通りのバイク音、大型車通行音が思いの外大きく、扉を開けての利用し会議利用することは難しい。「まち・かん114」としても対策すべきではあるが、関大前通りの環境として、何らかの規制を考えることも必要である。
- ・ 近年大学内にさまざまなミーティング施設ができており、コミュニティスペース、ゼミ利用施設としてのニーズが低下している。他とは違った利用ができる場、例えば飲食が自由でパーティーができる、近くの商店街からさまざまな料理をケータリングすることができるといった特徴を出すのも良い。
- ・ 場所にあった、関大前通りの空間にふさわしい活動を意識的に誘導する必要がある。
- ・ 研究室連携活動を目指していたが、研究室体制の違いから、実際は学部間の学生連携には課題が多い。

■ 2017年度の活動へむけて（学生提案）

- ・ ゼミ学生を主体として、責任を持った運営を実施していきたい。
- ・ 地域の会合など、ミーティングを積極的に受け入れる。
- ・ 1階については、オープン利用ができるように整備する（裏ドアの設置など）。
- ・ 2階は備品の保管ができるようにする。
- ・ まず、4月から、1階、2階の未改修部分を改修する。
- ・ 関大前通りの景観・まちなみ課題の抽出ワークショップの開催（今年度計画中、来年度実施）。

以上